

# 慶應大阪シティキャンパス(KOCC) 夕学サテライト講座〈2018年度前期〉

KOCC「夕学サテライト講座」は、東京丸の内シティキャンパス（慶應 MCC）で行う定例講演会「夕学五十講」のうちの一部講演を、インターネット回線を通じてライブ中継により、リアルタイムで受講するものです。

2018/3/2（金）12:00より申込受付開始（Web/Fax）

時間：18:30～20:30（開場 18:00） 会場：慶應大阪シティキャンパス（KOCC） 定員：90名

講座料：全 15 講演一括申込 20,000 円、 個別申込 1 講演@1,500 円\*

※個別申込は、一度のお申込枚数 5 枚につき合計金額から 500 円割引制度有。

\*下記は 2018/2/21 現在調整中の予定です。事情により講演者・日程等が変更となる場合がありますことをご了承ください。

1. 講演スケジュール（全 15 講演）		開催日・講師名・タイトル	主催：慶應学術事業会
①4/12 横田 南嶺 人生を照らす禅の言葉	⑥5/9 落合 陽一 超AI時代の生き方・働き方・考え方	⑪6/29 西野 亮廣 貯信時代のお金の作り方、使い方	
②4/20 有沢 正人 100年企業の人事大改革～グローバル企業への飛躍に必要な人事制度とは～	⑦5/25 秋山 仁 今日からあなたは Mathe-magician	⑫7/3 零坂 将広 テクノロジーが変えた経営戦略：進化を振り返り、未来を考える	
③4/25 内山 聖子 失敗しないドラマ創り	⑧5/31 木村 尚敬 これからのリーダーシップのあり方～ダークサイド・スキルを身につける～	⑬7/6 白井 さゆり 東京五輪後の日本経済	
④4/26 羽生 善治/阿刀田 高 AI時代の人間の行方	⑨6/6 茂木 健一郎/前野 隆司 幸福学と脳科学の文脈で語り合う平成 30 年	⑭7/12 スプツニ子！ 問いを立てるデザイン	
⑤5/8 石川 善樹 人生100年時代のセルフマネジメントとは何か？	⑩6/21 飯間 浩明 国語辞典から現代日本語が見えてくる	⑮7/24 飯田 泰之 日本経済の近未来	

## 2. 講師&講演紹介

日付の右横〈 〉内は 2018 年度前期夕学講座の講座テーマです。

### ① 4月12日（木） 〈人間の力を信じる〉

横田 南嶺（よこた なんれい） 臨済宗円覚寺派管長  
「人生を照らす禅の言葉」

苦しみ悩む人には心の支えになり、道に迷う人には生きる力を与えてくれる。長い歴史を経て伝えられた禅の教えは叡知に満ちている。一般家庭に生まれながらも幼少期から禅に心惹かれ、40代半ばで鎌倉を代表する古刹の管長に就任した。禅語や仏典に精通する横田老師が、古今の禅の言葉を分かりやすく解説する。

1964年和歌山県生まれ。幼い頃、祖父の死をきっかけに仏教に親しみ、和歌山の興国寺・目黒絶海老師に師事し、中学生の時に公案を与えられて独参を始めた。筑波大学在学中に東京の円覚寺派龍雲院小池心叟師家のもとで得度し、卒業と同時に京都建仁寺僧堂で修行生活に入る。1991年からは鎌倉市にある円覚寺僧堂で修行、足立大進前管長に師事。1999年円覚寺僧堂師家。2010年に臨済宗円覚寺派管長に就任。2017年12月に花園大学総長就任（～2019年）。『禅が教える人生の大道』や『人生を照らす禅の言葉』など著書多数。

### ② 4月20日（金） 〈変革期の経営と働き方〉

有沢 正人（ありさわ まさと） カゴメ(株) 執行役員 CHO  
「100年企業の人事大改革～グローバル企業への飛躍に必要な人事制度とは～」

トップのコミットメントなしに「人事改革」はできない。経営と心中するつもりで改革を迫ることが人事の役割であると喝破する有沢氏。さまざまな企業の人事改革に携わり、いまは百年以上の歴史を誇る老舗企業カゴメのCHOを務める人事のプロが、グローバル企業への飛躍に必要な人事制度を語る。

慶應義塾大学商学部卒業後、協和銀行（現りそな銀行）に入行。銀行派遣にて米国でMBAを取得後、主に人事、経営企画に携わる。2004年よりHOYA人事担当ディレクター、2009年AIU保険の人事担当執行役員と、各企業の人事変革に取り組んで来た経験を活かし、HRのプロフェッショナルとして2012年1月に特別顧問でカゴメ(株)入社。カゴメの人事面におけるグローバル化の統括責任者となり、全世界共通の人事制度の構築を行っている。2012年10月より執行役員CHOとなり、国内だけではなく全世界のカゴメの人事最高責任者となる。2018年4月常務執行役員CHOに就任予定。

### ③ 4月25日（水） 〈この人に聞く〉

内山 聖子（うちやま さとこ） テレビ朝日『ドクターX～外科医・大門未知子～』シリーズ制作ディレクター  
「失敗しないドラマ創り」

「私、失敗しないので」。ドラマのセリフとは裏腹に自身の人生は失敗だらけだと語る内山氏。だからこそ「ドクターX～外科医・大門未知子～」では”失敗しない”女と、”失敗しない”理由を描いたという。裏話をまじ

えて大ヒットドラマの企画から放送までを語る。

福岡県生まれ。津田塾大学英文学科卒業後、テレビ朝日入社。1993年秘書室から制作現場へ異動となり、1995年からドラマプロデューサーとして連続ドラマ、スペシャルドラマを手掛ける。『黒革の手帖』（2004年）などヒット作を数多く生み出し、中でも『ドクターX～外科医・大門未知子～』では橋田賞、向田邦子賞など数々の賞を受賞したほか、同作は世界200以上の国と地域で配信されている。

④ 4月26日（木） <この人に聞く>

羽生 善治（はぶ よしはる） 将棋棋士 / 阿刀田 高（あとうだ たかし） 作家

「AI時代の人間の行方」 ※本講演は羽生氏の講演60分・対談60分（質疑応答15分含む）の構成を予定しています。

将棋プログラムがトップレベルの棋士を脅かし、シンギュラリティが現実のものになろうとしている。国民栄誉賞を受賞した羽生氏は認知科学やAIにも造詣が深い。史上初の永世7冠を達成した天才棋士が読む近未来の人間像を、人間の機微を知る文壇の重鎮・阿刀田氏はどう受け止めるのかを楽しみたい。

【羽生 善治】埼玉県生まれ。中学3年でプロ四段となり、19歳で初タイトル・竜王を獲得。1994年九段に昇進。1996年タイトル七冠全て（名人・竜王・棋聖・王位・王座・棋王・王将）を独占し、圧倒的な強さで棋界に君臨。2017年12月5日史上初の永世七冠（永世竜王、十九世名人、永世王位、名誉王座、永世棋王、永世王将、永世棋聖）を達成。

2018年1月国民栄誉賞受賞。

【阿刀田 高】東京生まれ。早稲田大学文学部仏文学科卒業後、国立国会図書館に勤務しながら執筆活動を開始。軽妙なコラムニストとして活躍後、短編小説を書き始め、1978年『冷蔵庫より愛をこめて』で文壇デビュー。1979年『来訪者』で日本推理作家協会賞、短編集『ナポレオン狂』で直木賞、1995年『新トロイア物語』で吉川栄治文学賞をの各賞を受賞した。また、国語政策への寄与に対して2003年紫綬褒章、2009年旭日中綬章。日本ペンクラブ第15代会長（2007-2011）を務めた。

⑤ 5月8日（火） <人間の力を信じる>

石川 善樹（いしかわ よしき） 予防医学研究者、(株)Campus for H 共同創業者

「人生100年時代のセルフマネジメントとは何か？」

石川氏は東大医学部、ハーバード大学公衆衛生大学院を経たのち、予防医学者として「人がよりよく生きるとは何か」をテーマに学際的研究と情報発信を行っている。人生100年時代を迎えたいま、個人の生き方、働き方がどのように変わっていくのか、セルフマネジメントという観点から熱く語る。

広島県生まれ。東京大学医学部健康科学科卒業後、ニートを経て、ハーバード大学公衆衛生大学院修了後に自治医科大学で博士（医学）取得。「人がよりよく生きるとは何か」をテーマに企業や大学と学際的研究を行い、常に最新かつ最善の情報を提供することを心掛けている。また、最新の研究分野でもある「人工知能」にも取り組む。専門分野は、予防医学、行動科学、計算創造学など。NHKや健康番組のコメンテーター等メディアでも活躍中。近日『思想としての予防医学』を刊行予定。

⑥ 5月9日（水） <テクノロジーが変える社会システム>

落合 陽一（おちあい よういち） 筑波大学准教授・学長補佐、ピクシーダストテクノロジーズ(株) 代表取締役社長

「超AI時代の生き方・働き方・考え方」

落合氏は、大学で研究と教育に携わり、且つ芸術作品を生み出すアーティストでもある。自身の企業経営他、大企業とともにイノベーション開発を手がける。それらの活動の全てに影響を与えるのがAIに代表されるテクノロジーの革新だという。マルチな領域を通貫することでシナジーが生まれるという落合氏の「生き方・働き方・考え方」論に注目したい。

東京都生まれ。筑波大学情報学群情報メディア創成学類でメディア芸術を学び、東京大学学際情報学府博士課程を修了。2015年より筑波大学助教。映像を超えたマルチメディアの可能性に興味を持ち、映像と物質の垣根を再構築する表現を計算機物理場（計算機ホログラム）によって実現するなど、デジタルネイチャーと呼ばれるビジョンに基づき研究に従事する。同年Pixie Dust Technologies, Inc.を起業しCEOとして勤務。2017年よりピクシーダストテクノロジーズ(株)と筑波大学の特別共同研究事業「デジタルネイチャー推進戦略研究基盤」代表、准教授。落合氏の活動は、これまでにBBC、CNN、CNBC、Discovery、AP、ロイターなどで特集され、世界中100以上の有名新聞、雑誌、テレビ、Webメディアに取り上げられる。父親は国際政治ジャーナリストの落合信彦氏。

⑦ 5月25日（金） <人間の力を信じる>

秋山 仁（あきやま じん） 東京理科大学 理数教育研究センター長・教授

「今日からあなたはMathe-magician」

日本を代表する数学者として世界の大学でも教鞭を執り、テレビやラジオなどの数学講座では、数学の有用性や魅力をわかりやすく伝えている秋山氏。コペルニクス的発想の転換で、不可能を可能にする数学マジックを驚きと感動をもって語り尽くす。

東京生まれ。髭を生やし、長髪にバンダナを巻く独特のスタイルで、現在までに中国南開大学、カタルーニャ工科大学、サン

トドミンゴ自治大学、チュラロンコーン大学等の数十の大学で教鞭を執る。また、グラフ理論、離散幾何学の分野で百数十編の論文を専門誌に発表する一方、NHKテレビやラジオなどの数学講座で数学の有用性や魅力をわかりやすく伝え、なかでもNHK教育テレビ（当時）「高校数学講座」では驚異的な視聴率を記録した。

2017年より、ドミニカ共和国の数学支援プロジェクトに参加し、数学教育の普及に取り組んでいる。

⑧ 5月31日（木） <変革期の経営と働き方>

木村 尚敬（きむら なおのり） ㈱経営共創基盤（IGPI） パートナー、IGPI 上海執行董事

「これからのリーダーシップのあり方～ダークサイド・スキルを身につけろ～」

経営環境が厳しくなり改革が必要とされても正論を振りかざすだけでは周囲との軋轢を生むだけだ。様々な企業の戦略策定と実行支援の現場に立ち会ってきた木村氏が、人や組織の心をつかみ真の改革を推し進める、これからの時代のリーダーに求められるヒューマンスキルを伝授する。

慶應義塾大学経済学部卒業。レスター大学修士（MBA）、ランカスター大学修士（MS in Finance）、ハーバードビジネススクール（AMP）受講。大学在学中からベンチャー企業経営を経験し、日本NCR、タワーズペリン、ADLにおいて事業戦略策定や経営管理体制の構築等の案件に従事。経営共創基盤（IGPI）参画後は、製造業を中心に全社経営改革（事業再編・中長期戦略・管理体制整備・財務戦略等）や事業強化（成長戦略・新規事業開発・M&A等）などに携わる。様々なステージにおける戦略策定と実行支援を推進する企業再生・改革の専門家。近著『ダークサイド・スキル 本気に戦えるリーダーになる7つの裏技』が話題に。

⑨ 6月6日（水） <人間の力を信じる>

茂木 健一郎（もぎ けんいちろう） 脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチ

前野 隆司（まえの たかし） 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント（SDM）研究科 教授

「幸福学と脳科学の文脈で語り合う平成30年」 ※本講演は対談を含む講演90分・質疑応答30分の構成を予定しています。

研究が進んでもまだ謎の多い脳の世界。茂木氏はその特性やクセを研究し、学習法から悩み解決まで広い分野に応用し幅広い支持を得ている。一方前野氏は脳の認知機能を逆手にとった“幸福学”が大きな反響を呼んでいる。お二人が最新の知見も含めて幸福学と脳科学の文脈から平成30年を語る。

【茂木 健一郎】東京生まれ。東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了（理学博士）。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現職。専門は脳科学、認知科学。「クオリア（感覚の持つ質感）」をキーワードに脳と心の関係を研究するとともに、文芸評論、美術評論にも取り組んでいる。テレビ番組のキャスターやコメンテーターなどメディアでも幅広く活躍している。

【前野 隆司】1962年山口市生まれ。東京工業大学工学部機械工学科卒業。同大学理工学研究科機械工学専攻修士課程修了後、キャノン（株）入社。慶應義塾大学理工学部専任講師、同助教授、同教授を経て、2008年より現職。ロボットに人間と同等の機能をもたせるよう、プログラミングする人工知能について研究を進める途上で、意識に関する仮説「受動意識仮説」を見出した前野氏は、SDM研究科にてヒューマンインタフェース、ロボット、教育、地域社会、ビジネス、価値の他、幸福な人生のデザインなど、様々なシステムデザイン・マネジメント研究を行なっている。

※慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント（SDM）研究科：現代世界が直面する環境・安全・健康・平和・幸福等に関わる複雑な問題をシステムとして解決し、より良い世界を築くことを設立の趣旨とした文理融合型の大学院。

⑩ 6月21日（木） <地球と人間の歴史>

飯間 浩明（いいま ひろあき） 国語辞典編纂者、『三省堂国語辞典』編集委員

「国語辞典から現代日本語が見えてくる」

現代日本は、30年前の我々には理解できなかった言葉が溢れている。飯間氏は、辞書編纂者として活字・放送・ネット・街中など、あらゆる場で用例を採集し言葉と向き合う日々を過ごす。ITとグローバル化の進展で変化の加速度を増す言葉の世界と、そこから見えてくる日本語について観察的私論を展開する。

高松市生まれ。『三省堂国語辞典』の編集委員を第6版（2008年刊行）から務め、国語辞典編纂のために、様々なメディアや日常生活の中などから現代語の用例を採集する作業を続ける一方で、早稲田大学や成城大学などで非常勤講師を務める。また、NHK『使える！伝わる にほんご』などのテレビ番組や自身のTwitterでも日本語の魅力を発信し続けている。『辞書を編む』『辞書に載る言葉はどこから探してくるのか？』『ワードハンティングの現場から』『三省堂国語辞典のひみつ』など著書多数。

⑪ 6月29日（金） <「新しい経済」を考える>

西野 亮廣（にしの あきひろ） 芸人・絵本作家

「貯信時代のお金の作り方、使い方」

実力派漫才コンビと絵本作家の2足の草鞋を履く西野氏。クラウドファンディングで出版したベストセラー作品は著作権放棄で更に反響を呼んだ。信用を貯め目先の印税よりも大きなビジネスを呼び込む戦略や、リベンジ成人式で脚光を浴びたレターボットなど、新時代を感じさせる個性的なサービスとビジネスを語る。

兵庫県生まれ。梶原雄太氏と漫才コンビ「キングコング」を結成。活動はお笑いだけにとどまらず、絵本執筆、ソロトークラ

イブや舞台の脚本執筆を手がけ、海外でも個展やライブ活動を行う。2016年クラウドファンディングで出版した絵本『えんとつ町のプペル』が発行部数32万部の大ヒットとなり、またその著作権を放棄したことで更に反響を呼ぶ。また、このような取り組みの背景等を書いた著書『革命のファンファーレ 現代のお金と広告』も話題に。

⑫ 7月3日(火) <テクノロジーが変える社会システム>

琴坂 将広 (ことさか まさひろ) 慶應義塾大学総合政策学部 准教授

「テクノロジーが変えた経営戦略：進化を振り返り、未来を考える」

理論としての経営戦略と、実学としての経営戦略との接続は、多くの経営者・戦略スタッフにとって積年の課題である。大学時代に3社を起業し、大手外資コンサル勤務と海外留学を経て研究職に就いた琴坂氏が、経営戦略とは何かを多面的に解説し、それに関わる数々の理論体系の発展の系譜を読み解く。

慶應義塾大学環境情報学部卒業。在学時より、小売・ITの領域において3社を起業。大学卒業後、2004年からマッキンゼー・アンド・カンパニーの東京およびフランクフルト支社に在籍。北欧、西欧、中東、アジアの9ヵ国で新規事業と経営戦略策定のプロジェクトに関わる。多様な事業領域における国際経営の知見を広め、世界60ヵ国・200都市以上を訪れた。2008年に同社退職後、2009年オックスフォード大学修士(MSc. In Management Research with Distinction)、2013年オックスフォード大学博士(D.Phil. in Management Studies)。オックスフォード大学サイードビジネススクール、立命館大学経営学部を経て、2016年から現職。専門は国際経営、経営戦略、および組織と市場の関係について。

⑬ 7月6日(金) <「新しい経済」を考える>

白井 さゆり (しらい さゆり) 慶應義塾大学総合政策学部 教授

「東京五輪後の日本経済」

白井氏は自らの経験も踏まえて日銀の課題をこう語る。「中央銀行は、象牙の塔から抜け出しもっと国民と向き合うべきだ。」一見すると順調な景気拡大局面にある日本経済だが、東京五輪後の行く末には不透明感が漂う。アベノミクスの成果と後回しにされた政策課題を識別しながら日本経済の先行きを語る。

1993年コロンビア大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士(Ph.D.)。1993年国際通貨基金エコノミスト、1998年慶應義塾大学総合政策学部助教授を経て、2006年から現職。2011年4月から2016年3月までは日銀政策委員会審議委員を務める。日本のメディアのみならず、ブルームバーグTVとCNBCなど海外英語放送や、インタビューまたはコメンテーターとして出演するなど海外メディアでも活躍。ジャパントイムズやウォールストリートジャーナルにも数多くの論説を執筆。ほぼ毎月、海外の国際会議や講演会等に出席し、数多くの講演や投資家との懇談会を実施するなど、国内外の情報収集を欠かさない。

⑭ 7月12日(木) <テクノロジーが変える社会システム>

スプツニ子! (すぷつにこ!) アーティスト、東京大学特任准教授

「問いを立てるデザイン」

アーティストとして、テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を制作してきたスプツニ子!氏。デザインとITとメディアの結節領域で、未来を創り出す存在として注目される異才が、デザインを通じて社会に問題を提起する。

1985年に、日本人の父と英国人の母、両親ともに数学者の家庭に生まれる。インペリアル・カレッジ数学科および情報工学科を卒業後、英国王立芸術学院(RCA)デザイン・インタラクションズ専攻修士課程を修了。在学中より、テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を制作。ニューヨーク近代美術館や東京都現代美術館でも展示されるなど、その発想と作品が認められ、2013年よりマサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボ助教に就任しDesign Fiction Groupを率いた。2017年秋より東京大学RCAデザインラボ 特任准教授就任。VOGUE JAPAN ウーマンオブザイヤー2013受賞。2014年FORBES JAPAN「未来を創る日本の女性10人」に選出された。2016年第11回「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本特別賞」受賞。2017年世界経済フォーラム「ヤンググローバルリーダーズ」に選出されるなど、今、注目のアーティスト。

⑮ 7月24日(火) <「新しい経済」を考える>

飯田 泰之 (いいた やすゆき) 明治大学政治経済学部 准教授

「日本経済の近未来」

これから確実に日本の人口は減る。しかし、少子高齢化=日本経済衰退ではない。過剰な悲観論は不要だ。迫りくる日本のピンチをビジネスチャンスとして活かすには? 10年以上にわたり政府関連の研究や調査に関わり地域再生にも造詣の深い飯田氏が、複数の切り口からビジネスへのヒントを提供する。

東京生まれ。東京大学経済学部卒業、同経済学研究科修士課程修了、同経済学研究科博士課程単位取得退学。2003年より内閣府経済社会総合研究所客員研究員、参議院事務局特別調査室客員調査員、内閣府経済社会総合研究所客員研究員、財務省財務総合政策研究所客員研究員、財務省財務総合政策研究所上席客員研究員と、長年数々の政府関連の研究や調査に関わる。現在は内閣府規制改革推進会議委員を務める。